

## みんなで成長する2学期に！！

朝晩少し涼しくなりましたが、日中はまだまだ暑い日が続いています。約1か月の夏休みが終わり、2学期スタートから10日が経ちました。みんな元気に2学期を迎え、学校にも活気が戻りました。39人それぞれの夏休みを過ごしましたが、自分を伸ばす夏休みだったのでしょうか？さて、カー用品販売“イエローハット”の創業者 鍵山秀三郎さんの『3つの幸せ』というお話を知っていますか。

まず、一つは「してもらう」幸せ。赤ちゃんがお母さんからお乳を飲ませてもらう。病気で寝込んでいる時に、家族に看病してもらおう。誕生日にプレゼントをいただく。人は赤ん坊の時から、何かを「してもらう」と嬉しい。

次は「できるようになる」幸せ。箸で食べられるようになる。自転車に乗れるようになる。鉄棒ができる。跳び箱を跳べる。今までできなかったことが「できるようになる」幸せがある。

三番目は「してあげる」幸せ。この三番目が一番価値が大きい。お父さんお母さんに何かをやってあげる。友達に何かしてあげる。そうするとお父さんやお母さんが喜ぶ。友達が喜ぶ。人が喜んだ姿、喜んだ顔を見た時に、自分が幸せになる。これがもっとも大事な幸せと言える。

(出典：鍵山秀三郎『あとからくる君たちへ伝えたいこと』)

1学期は中学校生活に慣れる期間でした。初めての事ばかりで、教えてもらうことも多かったと思います。しかし毎日の生活を通してできることが増え、表情も中学生らしくなりました。2学期は自分自身をさらに成長させるとともに、周りを見て、仲間のために自分ができることがあれば手を差し伸べ、互いを高め合える時間を過ごしてほしいと思います。

いよいよ今週から本格的に体育祭の練習が始まりますが、2学期は文化発表会や部活動の新人大会など、仲間と力を合わせる行事がたくさんあります。また行事だけでなく、学習面も新しいことをどんどん習得していかなければなりません。「できる」「してあげる」「ともにできる」喜びを感じられる2学期にしてください。

2日(月) 午後授業なし(給食後下校)

集金袋配付

11日(水) 体育祭予行

14日(土) 体育祭

17日(火) 振替休日

18日(水) 弁当持参(給食なし)

※体育祭の練習に伴い、9日(月)から部活動なしで、下校時間が16:45になります。

## 平和学習

先日広島から2名の方にお越しいただき、朗読を聞かせていただきました。身内に広島で原子爆弾の被害に遭われた方がおられ、2度と同じことが起こらないでほしいという強い願いと自ら語り継いでいかなければという思いで、当時の様子や、被爆された方々がつぶった言葉を伝えてくださいました。

～みんなの感想より～

- ・爆弾の爆発や苦しむ人の映像が流れた時、とても怖かった。でも本当にその場にいた人は、僕が思った何倍も怖かったと思う。僕があの場合にいたら、怖くて動くことすらできないと思った。生き残るために、どんどん自分の前で人が亡くなっていく悲しみをこらえるのは勇敢だと思った。
- ・原爆投下の実際の映像を見て、原爆にあった人たちはとても苦しくて悲しい思いをし、したくないほどしたのだと分かりました。家族の無事を確かめに行きつづけて亡くなった人、のちに被爆してしまった人達がいることを知り、驚いたし悲しい気持ちになりました。今日まで原爆が落ちた時の様子やその後の事を詳しく知らなかったし、怖くて知ろうともしていなかったけど、身近に知っている人がいるのなら、聞いてみようと思った。どうすれば平和が続いていくのかを考え、伝えていきたい。
- ・命の大切さを改めて感じました。もしあの時自分があの場合にいたならばと考えて被爆体験記の朗読を聞いていたら、頭の中に情景が見えてきて、恐怖で眠れないと思った。核兵器をなくして、安心安全で暮らせる平和な世界になって欲しいなと思った。
- ・周りに戦争のことを話してくれる人がいなかったの、実際に苦しみや怖さを感じることができた。生きることができてよかったと思うのではなく、なぜ自分だけが生き残ってしまったのかという悲しさや苦しみを詩にしたのは、2度と戦争をしてほしくない、自分たちのような体験をしてほしくないという願いが込められているからだと思った。
- ・体験記を聞くと、被爆された方の悲しみや苦しみが生々しく伝わってきて、思わず耳をふさいでしまいそうな場面がたくさんあった。もっと生きたかったのに生きれなかった人がたくさんいると思う。これから私にできることは、戦争や原爆の悲惨さを知り、後世や外国人の方にも伝えていくことだと思う。この世界に2度と、戦争や原爆投下が起こらないようになって欲しい。
- ・話を聞いて思ったことは、今現在の生活のありがたみが分かった。水、食料、家、家庭があるのは幸せだと思った。話を聞き、いい経験だと思った。
- ・被爆体験記では、その場にいないと分からない感覚や情景が思い浮かんで、その場にいた人はどれほど苦しい思いをしたのだろうと思った。同い年や私より小さい子の詩もあって、たくさん

のつらい経験をしたんだなと思った。核兵器を使わせないよう私たちにできることは、原子爆弾でどのようなことが起きたのかを後世に伝えることが大切だと分かった。